

事業別戦略

アグロ&ライフソリューション

アグロ&ライフソリューション部門（インベスターズハンドブック）

部門ビジョン

独自の魅力ある商材・ソリューションの世界市場への提供を通じ、
リジェネラティブ農業とサステナブル社会の実現に貢献する



常務執行役員
アグロ&ライフソリューション部門 統括 片山 忠

事業紹介

農業関連事業

化学農薬

- 農作物などに被害をもたらす害虫に効果を発揮する殺虫剤
- 作物ごとに応じた除草剤
- 農作物の病気を防除する殺菌剤

バイオラショナル

- 天然物由来の成分を活用した微生物農薬、植物成長調整剤、根圏微生物資材、バイオスティミュラントなど



農業用殺虫剤や除草剤などの各種農業関連製品

生活環境事業

化学合成・バイオラショナル殺虫剤

- 家庭用殺虫製品（蚊取り線香、液体蚊取り、エアゾールなどの殺虫剤、虫除け樹脂製剤などに用いられるピレスロイド系薬剤とそのデバイス）
- 業務用殺虫製品（一般家屋、ビル、倉庫用等の害虫防除業者向け）
- 公衆防疫用殺虫製品（衛生害虫対策用）



家庭用殺虫剤原体等

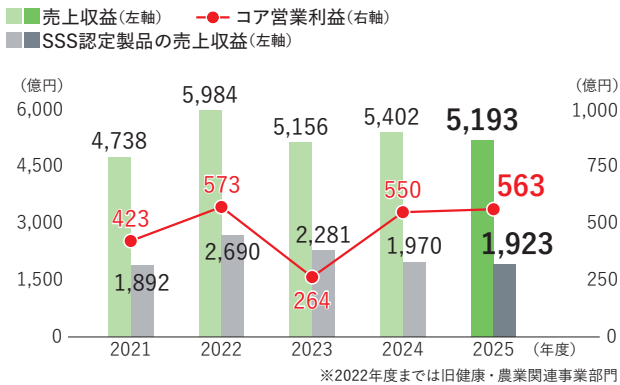
アニマルニュートリション事業

メチオニン

- 主に養鶏に用いられるメチオニン（必須アミノ酸の一種で、飼育対象動物の成長を促進する働きがある）

2025年度 業績関連データ

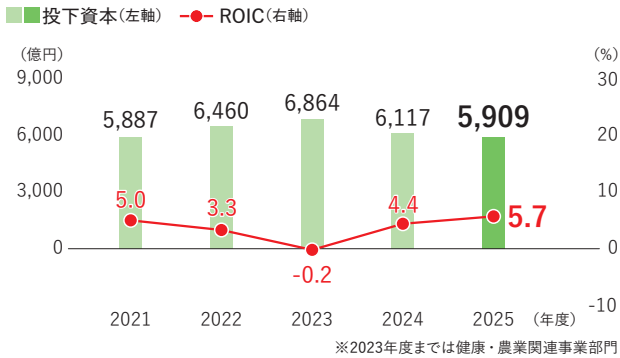
売上収益・コア営業利益・SSS認定製品の売上収益



海外売上収益比率



投下資本・ROIC



これまでの推移

住友化学の今後の成長ドライバーとして、これまでの積極的な投資の回収を継続するとともに、在庫削減等による投下資本の適正化に取り組んできました。2025年度は、南米で天候不順の悪影響がありましたが、国内農業市場の堅調な推移等により、ROICは5.7%になりました。

今後の対策

化学農薬領域ではインディフリン®・ラビディシル®等の新製品の上市・販売を進めるとともに、バイオラショナルのさらなる拡大を図り、収益力を強化していきます。同時に在庫削減や債権債務の圧縮等により投下資本をさらに適正化し、資本収益性を意識した事業運営を推進していきます。

住友化学とは

住友化学が目指す姿

価値創造の実践

価値創造基盤の強化

データ

2025-2027年度 中期経営計画方針と進捗

2027年度財務目標

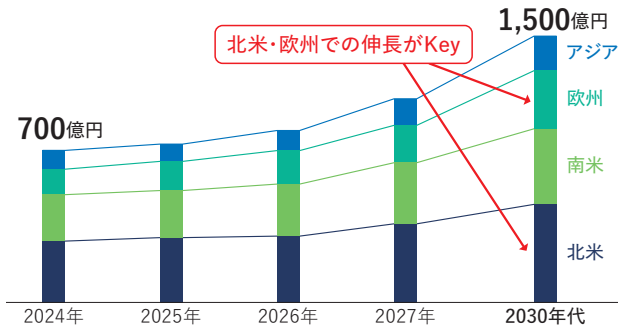
コア営業利益：800億円 ROIC：8%

バイオラショナルを中心とした成長戦略の着実な実行

方針

- バイオスティミュラント等の新事業領域でのグローバル展開、既存剤とのシナジー追求
- バイオラショナルの拡販加速

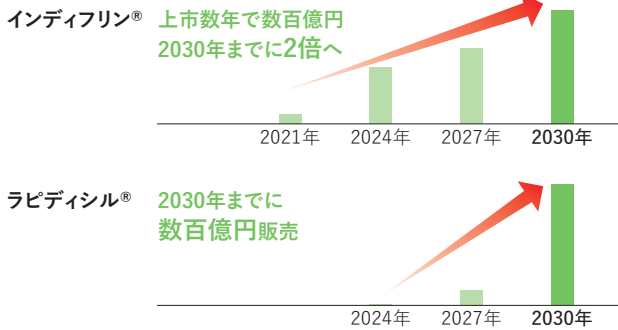
バイオラショナル製品 地域別売上高推移



新規剤の上市・拡販とパイプラインの開発促進

方針

- インディフリン®、ラビディシル®の上市・拡販および既存事業とのシナジー拡大
- 次世代パイプラインの開発促進

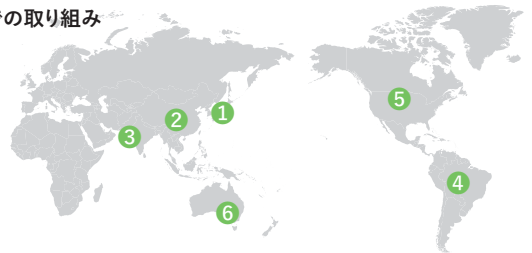


製品供給体制の強化とコスト競争力・資本効率性の追求

方針

- 国内外の供給体制の最適化
- 安定的かつ競争力のある供給能力の確保
- 運転資金の圧縮、在庫最適化、製造コスト競争力強化

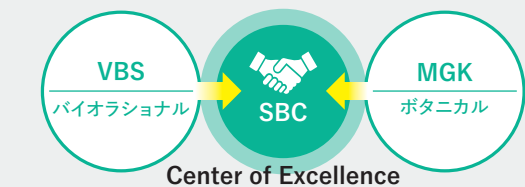
各地域での取り組み



進捗

Sumitomo Biorational Company (SBC) 設立

米国グループ会社を再編し、バイオラショナル事業のグローバル拠点を設立



- 狙い
- 重点事業分野の強化 - “Center of Excellence”
統合前の旧Valent BioSciences（バイオラショナル）、旧MGK（ボタニカル）にまたがる、知見・経験を新会社を集結
 - 外部環境の変化への備え - 事業運営コスト最小化
重複を排したスリムで効率的な事業運営体制を実現

進捗

剤ごとの戦略

インディフリン®

- 2025年のトウモロコシへの適用拡大を梃子にした拡販（利便性向上による市場創出・拡販機会獲得）
- 棉にも使用できる、インディフリン®含有混合剤Pladius™の拡販
- 2025年設立の住化パラグアイを通じた、パラグアイの農業市場での拡販加速（ブラジルでの知見・経験の活用）

ラビディシル®

- 北南米各国での登録推進と混合剤開発による製品ラインナップの拡充
- PPO耐性作物との次世代雑草防除体系の構築
- 2026年にアメリカで登録を取得。2027年内にブラジルでの登録取得を見込む

進捗

- ① 日本（大分、三沢）：製品ライフサイクルも考慮しながら、既存製品の一部を自社工場から導出する等の生産体制の再編を検討
- ② 中国：購買機能の集約により、南米ポストパテント品他製品を安価調達
- ③ インド：農業原体、中間体の製造等、現地製造機能を拡充、強化
- ④ 中南米地域：新規剤・バイオラショナル品の製造能力の増強・機能拡充／他地域向けの製造・輸出も加速
- ⑤ 北米：バイオラショナル事業の拠点としてSBC Osage工場の競争力強化・能力増強、北米の生活環境事業の拠点としてSBC Chaska工場の競争力強化
- ⑥ オセアニア：バイオラショナル事業（生活環境・農業領域）を支える天然ピレトリンの生産拠点として競争力強化、能力増強

事業別戦略

ICT&モビリティソリューション

ICT&モビリティソリューション部門（インベスターズハンドブック）

部門ビジョン

独自の核心技術と蓄積したノウハウを融合し、顧客イノベーションを加速する
トータルソリューションにより、次世代技術の推進に貢献



副社長執行役員
ICT&モビリティソリューション 部門 統括 松井 正樹

事業紹介

半導体関連事業

フォトレジスト

- 半導体の製造工程で超微細回路パターンを形成する感光性樹脂

半導体用ケミカル

- 半導体の製造工程で洗浄やエッチング工程などに使用される高純度・機能性薬品

高純度無機材料

- 超高純度のアルミナ・アルミニウム

化合物半導体材料

- 窒化ガリウムなど優れた高周波／高耐電圧特性を有する基板やその積層体

ディスプレイ関連事業

偏光フィルム

- スマートフォンなどのディスプレイで、高精細な画像を実現する高機能フィルム

カラーレジスト

- ディスプレイの重要部材であるカラーフィルター層を形成する赤・緑・青の高機能色素材料

モビリティ関連事業

スーパーエンジニアリングプラスチックス

（液晶ポリマー（LCP）、ポリエーテルスルホン（PES））

- 自動車、航空機、電子機器等に用いられる耐熱性・流動性・寸法安定性が特長の樹脂

レゾルシン

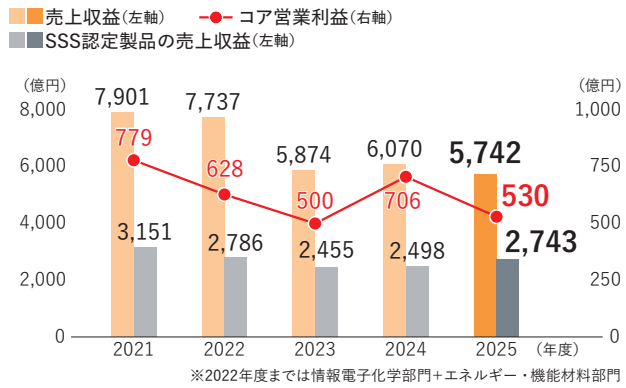
- ゴム製品や接着剤など各種ファインケミカルの原料

セパレータ

- リチウムイオン二次電池の正負極のショートを防ぐ絶縁フィルム。同時に電解液保持とイオン電導を担う安全部材

2025年度 業績関連データ

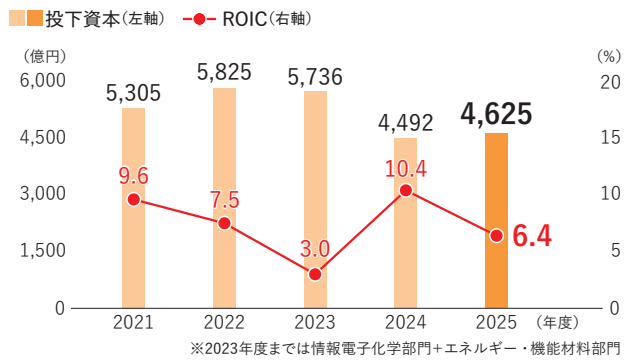
売上収益・コア営業利益・SSS認定製品の売上収益



海外売上収益比率



投下資本・ROIC



これまでの推移

住友化学の今後の成長ドライバーとして、半導体関連事業の設備新設・増強など、積極的に投資を継続してきました。2025年度は、AI関連需要の好調による半導体関連事業の回復はあったものの、ディスプレイ関連材料の価格競争激化に伴う売価下落の影響等をうけ、利益水準は低下し、ROICは6.4%になりました。

今後の対策

半導体関連については、米国での新工場稼働開始、買収したAUECC社の拠点活用により、グローバルに事業エリアを拡大していきます。後工程材料においても、先端分野をターゲットに顧客と一体で材料開発をさらに加速し、着実な事業化を推進します。また、モビリティ関連事業の再編等を通じてポートフォリオの高度化を図り、部門全体で次の成長に向けた収益改善策を実施していきます。

2025-2027年度 中期経営計画方針と進捗

2027年度財務目標 コア営業利益：800億円 ROIC：11%

半導体関連事業

▶ フォトレジスト

方針

- 半導体技術の進展に応じた先端領域へ先行投資
- 独自の核心技術を深化、グローバル供給・開発体制を整備・拡大
 - 日本と韓国の2拠点供給体制を確立
 - フォトレジストマザー拠点である大阪地区の機能強化

アルカリ現像ネガ型レジスト（液浸ArF）
世界トップクラスの液浸ArFレジスト技術を発展させ解像度向上を実現。先端ArF露光機活用により対応領域拡大を目指す

有機分子レジスト（High NA EUV）
半導体の究極微細化に向け、レジスト材料を分子サイズで設計・研究開発リソースを集中投入、次世代プラットフォーム開発を加速

▶ 半導体用ケミカル・半導体後工程材料

方針

半導体用ケミカル

- 半導体用ケミカル企業買収による台湾・米国西部拠点取得など、各拠点の供給体制拡充・生産性向上を進めるとともに、プロセス技術および評価・分析体制を強化し、グローバルトップクラスの事業規模を強化

半導体後工程材料

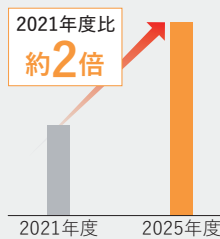
- コア技術（有機合成・フォーミュレーション・精密フィルム加工等）を最大限活用し、AI半導体製造に適用される先端後工程製品の開発・上市・販売拡大を着実に加速

進捗

フォトレジスト事業関連の投資案件

稼働時期	直近の主な投資案件	拠点
2024年度	研究／量産評価新棟竣工 先端フォトレジスト新工場稼働 ・EUV／液浸ArFレジスト量産	大阪 韓国
2026年度	先端フォトレジスト評価設備拡充 ・先端ArF露光機の稼働開始	大阪
2027年度（予定）	次世代EUV技術センター新設 ・製造プロセス技術・品質評価・分析機能を集約	大阪

当社 先端フォトレジスト
生産能力増強



進捗

台湾AUECC社買収・ガラスコア基板JV設立

2025年度に台湾、米国に生産拠点を持つAsia Union Electronic Chemical Corporation (AUECC) 社を買収しました。

また後工程材料では、サムスン電機社と、先端パッケージに使用されるガラスコア基板を製造するGlaSSEM社（仮称）の設立に関する合併契約を締結しました。



AUECC半導体用ケミカル工場（米国）

ディスプレイ・モビリティ関連事業

▶ 偏光フィルム

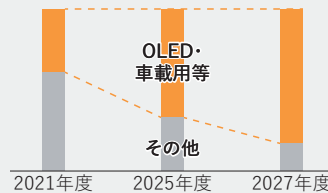
方針

- 構造改革を着実に推進し、持続可能な事業基盤の確立に向けて要素技術の開発加速。独自のキーマテリアル（液晶塗布型位相差フィルム・液晶塗布型偏光子）を基盤に、OLEDモバイル・車載・次世代ディスプレイなどの高機能分野への事業展開を推進

進捗

中国大型LCD用偏光フィルム事業譲渡など、着実にポートフォリオの転換を進め、2025年度には2021年度比で高機能分野の売上高比率が約3割上昇しました。独自技術の深化により、先端分野へのシフトをさらに進めています。

製品別売上高比率

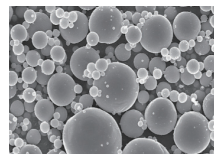


新規事業

2020年代に半導体関連事業、ディスプレイ関連事業、モビリティ関連事業に次ぐ、新規事業の柱を確立することを目指します。

次世代サーマルマネジメント材料

AI・高速通信の進展に伴う電力消費の増加を背景に、高度な熱マネジメント技術への需要が高まっています。当社は、半導体先端パッケージ向け材料や、低α線量高純度微粒球状アルミナを開発しており、優れた放熱特性によってデバイスの性能向上に貢献します。



高純度微粒球状アルミナ「ELAシリーズ」

次世代パワーデバイス材料

EV等に使われる電力転換回路を小型化・低損失化することが可能な次世代パワーデバイス向け材料として高品質な窒化ガリウム基板を市場に提供し、省エネを通じカーボンニュートラルへ寄与します。

通信デバイス材料

移動体通信用中継器の小型化に貢献する、ディスプレイ上に設置可能な高速通信向け高機能アンテナや、ガラス構造物へのサイネージ展開を可能とするガラス透明ディスプレイを開発・展開し、次世代通信技術の発展に寄与するソリューションを提供します。



ガラス透明ディスプレイ

事業別戦略

アドバンストメディカルソリューション

アドバンストメディカルソリューション部門（インベスターズハンドブック）

部門ビジョン

高度な製造・管理・分析技術を駆使したソリューションの提供を通じ、
“化学とバイオの力”で世界中の人々の健康と未来を支える



代表取締役社長 社長執行役員
ケミカル・アセット・マネジメント本部
アドバンストメディカルソリューション部門 統括 水戸 信彰

事業紹介

高度化低分子医薬CDMO事業^{*1}

- 国内外の製薬企業に供給する医薬品の有効成分（原薬）およびその中間体のCDMO事業を実施

医療用オリゴ核酸^{*2}CDMO事業

- ゲノム編集治療に必要な長鎖RNAのCDMO事業を実施

再生・細胞医薬CDMO事業

- 住友ファーマの再生・細胞医薬の知見と、当社の受託製造の知見を合わせ、S-RACMO株式会社にて再生・細胞医薬製品のCDMO事業を実施

再生・細胞医薬（創薬）事業

- 住友ファーマが有する再生・細胞医薬の製剤開発等に関する知見と、当社が有するiPS/ES細胞の基盤技術等に関する知見を掛け合わせ、株式会社RACTHERAにて再生・細胞医薬製品の創薬事業を展開

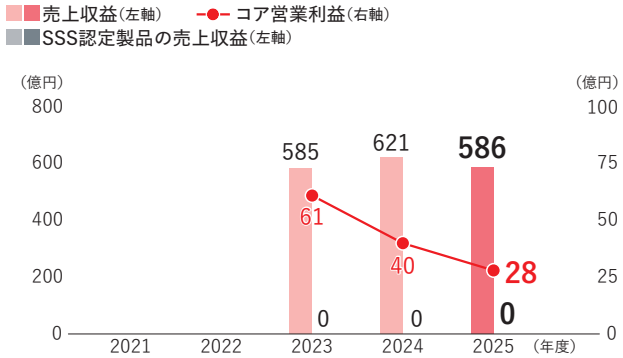
※再生・細胞医薬事業の創薬に係る費用は、当面の間全社共通費用として計上

^{*1} 医薬品等の製法開発、製造受託等を行う事業。CDMOはContract Development and Manufacturing Organizationの略

^{*2} 最先端のゲノム編集治療に必要な核酸。一般的な核酸医薬と比較するとはるかに長い。医療用途では高純度品の必要性が指摘されている

2025年度 業績関連データ

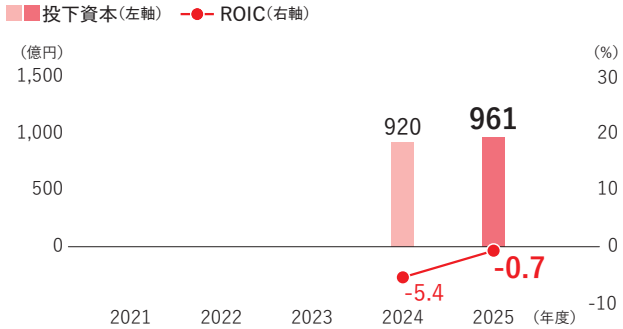
売上収益・コア営業利益・SSS認定製品の売上収益



海外売上収益比率



投下資本・ROIC



これまでの推移

CDMO事業は、当社の「勝ち筋事業」として、高品質な医薬品原薬を安定供給するとともに、医療用オリゴ核酸など高付加価値領域で受託実績を拡大してきました。一方で、2025年度は子会社でのファイナ製品製造設備等に係る減損損失の計上により、ROICは-0.7%となりました。

今後の対策

高度化低分子医薬CDMO事業では新規案件の受注拡大、医療用オリゴ核酸CDMO事業では米国顧客対応を一層強化して売上増を実現します。再生・細胞医薬事業では、CDMOの製造設備拡充に加え、パーキンソン病治療用製品の国内本承認ならびに米国承認に向けた臨床試験の一層の推進を通じて、事業拡大と収益力を強化していきます。

住友化学とは

住友化学が目指す姿

価値創造の実践

価値創造基盤の強化

データ

2025-2027年度 中期経営計画方針と進捗

2027年度財務目標

コア営業利益：100億円

ROIC：7%

高度化低分子医薬CDMO

方針

- 当社の総合対応力を求める国内製薬企業が主要ターゲット顧客
- 顧客パイプラインや開発・購買方針の多角的な解析による、優先度をつけた濃淡あるプロモーションの推進
- 新薬CDMOに力点を置いた、高利益体質事業への成長促進
- 当社の強みである製造技術を活かした、高品質なジェネリック原薬の安定供給



低分子医薬新プラント（大分）

進捗

- 地道な受注活動により継続的な新規案件獲得（25年度：3件）
- 既存工場の高稼働および安定生産の実現
- 将来の事業拡大に向け、広栄化学マルチプラントのGMP対応検討開始

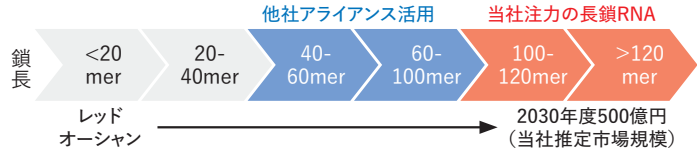


広栄化学（千葉）

医療用オリゴ核酸CDMO

ターゲット

- 製造の難易度が非常に高い高純度の長鎖RNA（100mer超）に注力



方針

- 米国CRO拠点SC-AMSA[®]を活用した米国顧客対応強化
- 長鎖RNAにおける当社ならではの高純度品質・分析技術の標準化推進

※Sumitomo Chemical Advanced Medical Solutions America LLC



医療用オリゴ核酸プラント（大分）

進捗

- 積極的なサンプル提供実施および営業活動による受注の拡大
- 新工場の安定生産の実現
- 米国に開発サポート拠点として新会社SC-AMSAを設立し、サンプル合成・提供開始



SC-AMSA（米国）

再生・細胞医薬CDMO

方針

- 高度な生産技術や製法開発ノウハウ、薬事対応力等を強みとした案件獲得の加速化
- 製造設備の拡充を通じた一層の事業拡大
- 将来の飛躍的成長に向けた組織強化、米国基盤構築等の推進



S-RACMO 新CPC[®]「CRAFT」
※Cell Processing Center（細胞培養加工施設）

進捗

- 順調に案件獲得・受託拡大が進み5期連続黒字を達成
- 製造施設第3棟「CRAFT」稼働開始、第4棟の経産省補助金給付決定

再生・細胞医薬（創薬）

ターゲット

- ターゲットとするiPS細胞は、ES細胞と同様に多様な分化能を有する多能性幹細胞
- 受精卵を壊して採取するES細胞の倫理上の課題を解決可能

方針

- 世界初のiPS細胞由来パーキンソン病治療用製品の2025年度承認申請実施、承認取得
- 先行3製品（パーキンソン病治療用製品、網膜疾患治療用製品）の早期育成によるリーディングポジション確立

iPS細胞を用いたパーキンソン病治療



進捗

- 2026年3月、アムシェブリ（パーキンソン病治療用製品）国内承認取得（条件及び期限付承認）
- 先行3製品の臨床試験を着実に推進



条件及び期限付承認

条件	・製造販売後臨床試験 ・使用成績調査
期限	承認取得から7年 (2032年度末)

住友化学の再生・細胞医薬事業

事業別戦略

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ部門（インベスターズハンドブック）

部門ビジョン

社会に不可欠な材料の安定供給を継続するとともに、環境負荷低減に貢献するSolution Providerとしての地位を確立



専務執行役員
エッセンシャル&グリーンマテリアルズ部門、
炭素資源循環事業化推進 統括 武内 正治

事業紹介

ポリオレフィン事業

ポリエチレン（PE）

- 柔軟性があり、耐水性・耐薬品性が高く、加工性に優れた合成樹脂（ラップフィルムや食品用チューブなどの包装材、電線被覆、農業用ハウスに使われるフィルムなどに幅広く使用）



ポリエチレンを用いて作られた様々な製品

ポリプロピレン（PP）

- 軽量で加工性、耐久性、耐熱性、耐薬品性など多くの優れた特性を持つ合成樹脂（自動車のバンパーやインストルメントパネル、食品用トレイ、家電などに幅広く使用）

メタアクリル事業

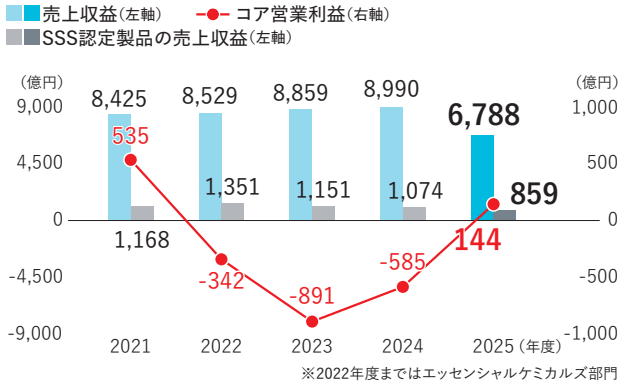
- 優れた透明性と耐候性を有した素材（LEDテレビ用導光板などの光学部品、自動車部品、ショーケース、屋外広告などに幅広く使用）

ライセンス・触媒事業

- 自社の国内工場や海外の関係会社で培ってきた製法・技術のライセンス供与および触媒の販売
- プロピレンオキシド（PO）単産法のほか、大幅な省エネルギー化や副生物を原料へリサイクルできる特長を持つ塩酸酸化などをラインアップ

2025年度 業績関連データ

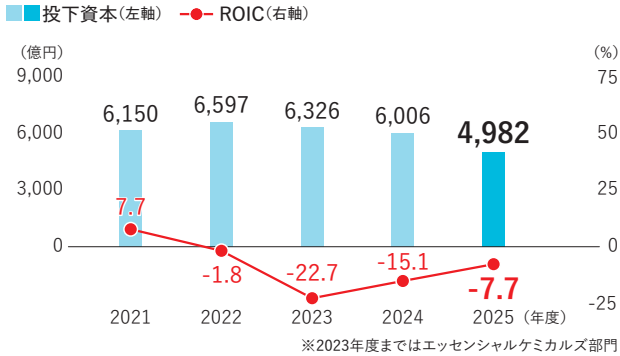
売上収益・コア営業利益・SSS認定製品の売上収益



海外売上収益比率



投下資本・ROIC



これまでの推移

投下資本は、事業維持を除く成長投資について収益性・将来性を踏まえ案件を厳選しており、減少傾向にあります。2025年度は、ペトロ・ラービグ株式の売却に加え、ペトロ・ラービグや合成樹脂等の交易条件改善により業績が改善したことで、ROICも改善しました。

今後の対策

日本・シンガポールでは、社外連携も活用した事業構成の最適化、高収益製品の開発・拡販を推進します。ペトロ・ラービグについてはサウジ・アラムコ社主導で抜本的な収益力改善を図ります。あわせて、市況に左右されない事業構成を目指し、ライセンスおよび触媒事業に注力していきます。

2025-2027年度 中期経営計画方針と進捗

2027年度財務目標

コア営業利益：250億円 ROIC：4%

事業再構築の完遂

国内・シンガポールにおいて企業連携も活用した事業構成の最適化と、不採算・ノンコア事業のさらなる整理を推進

国内石化再編

方針

上流・下流での企業連携効果を最大化、事業のスリム化により安定収益を確保

既存エチレンプラントの合理化

千葉地区の立地を活かした生産体制の最適化により高稼働を実現

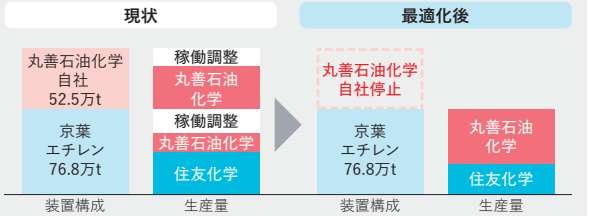
ポリオレフィン企業連携

国内最大手のプライムポリマーとの統合により事業競争力強化

進捗

京葉エチレン運営最適化

- 丸善石油化学と京葉エチレンの運営最適化について合意。引取比率は丸善石油化学64%、当社36%（最適化後）
- 26年度中に最適体制へ移行し、固定費負担の低減と稼働率向上により採算改善見込み



プライムポリマーへの事業統合

- 国内PP・LLDPE事業のプライムポリマーへの統合を合意
- プライムポリマーとして年間80億円以上のコスト削減および高機能・環境対応製品の開発加速を見込む
- 2026年7月に製造機能以外の統合を実施、製造機能の統合は2027年4月に実施予定

シンガポール石化再編

方針

- 上流 PCSコンプレックス構成の最適化検討・確立
- 下流 TPC高付加価値グレードへのシフトによるポリオレフィンの収益力向上

進捗

- 上流 PCS生産最適化・販売構成見直しを継続検討
- 下流 TPC高付加価値グレード拡販・販売エリアシフトを推進

ライセンス・触媒事業の強化

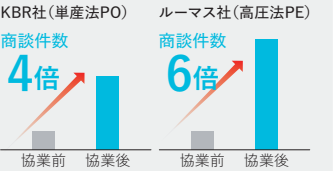
方針

安定的な収益獲得と持続的なビジネス拡大に取り組み、2027年度には部門の主要事業として収益に貢献

- 安定的な収益基盤の確保
 - 触媒供給能力拡大
 - 潜在顧客への接触機会拡大
- ポートフォリオの拡充
 - 環境負荷低減技術によるライセンス・ラインアップの拡充
- 技術のブラッシュアップ
 - プロセス競争力の強化
 - 触媒の高寿命化、コスト改善

進捗

- 塩酸酸化・PO単産法など、独自の高性能触媒を基盤とした多くのプロセス技術を有し、順次ラインアップを拡充
- 米KBR社、ルーマス社との協業を通じ、世界のマーケットにおける当社技術のプレゼンスが向上
- 2026年2月、アクリル樹脂の高効率ケミカルリサイクル技術の商業スケールでのライセンス提供をルーマス社と開始
- 2026年5月、協業先の米テクニップ社が、独BASF社と塩酸酸化技術のグローバル・ライセンス契約を締結



環境負荷低減ソリューション事業の基盤強化

事業の概要

競争力のあるGXライセンス技術を基軸に、資源循環バリューチェーンを形成し、技術ライセンスや触媒の販売にとどまらず、調達・販売ルートの確保を含めたトータルソリューションを提供します。炭素資源の循環技術は、環境負荷低減のみならず、経済安全保障の観点でも重要性が増しており、早期社会実装と技術ライセンスの拡大により、2035年にはコア営業利益400億円の達成を目指しています。

